伊犂の肥沃

人口の減少と原因

第七節　住民地附、移民の必要

僅に總面積の十分の三のみ人民の使用地に屬する新疆中、最も其の生息に適する自然の良土を問はゝ、第一に先づ指を伊犂に屈せずんばあらず。蓋し伊犂の地たるや、天山々脈其の東南北の三面を圍み、唯西の一方、平野遠く露境に連り、其狀恰も三角形を以て、頂角は新疆の中部に達し、底邊露清の國境を成せり。而して其中央に伊犂河貫流し、支流の哈什河、空克斯河、昌曼河、特克斯河等と共に、無數の溝渠を通じ、附近一帶を灌漑す。是に於てか山地は水草に富み、牧場に適し、平地は耕地皆肥沃ならざるは無く、楊柳果樹到る處に蓊鬱たり。此の如き天然の良土なるに反し、現時住民の比較的多からざるは果して何ぞ。惟ふに同治の末年より光緒の初年に亘れる回亂の慘劇は、其の七城陷り、滿漢人は殆んど彼等の毒手に屠られ、次で纏頭回、漢回の爭鬪殺戮あり、伊犂をして鮮血に塗れしめ、又次で有名なる左宗棠の進軍は、謀叛者たる纏頭回、漢回をして遠く、露境内に逃遁せしむるに至り、一時伊犂地方は、住民皆無の狀態と爲りしに原因せずんばあらず。戰後再び南路の纏頭回